

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270300740		
法人名	社会福祉法人 うぐいす会		
事業所名	稲毛グループホーム		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町153-1		
自己評価作成日	令和5年2月23日	評価結果市町村受理日	令和5年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10-15		
訪問調査日	令和5年3月15日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が生きがい・やりがいを持って生活をし外に出られない状況下で室内での動きを多めにとるようにして一日一日を楽しんでもらえる様、全職員で入居者に接しております。施設での生活を入居者だけではなく、ご家族様も安心してもらえる様、ご家族様とも密にコミュニケーションをとるように心がけています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の良い点として  
 ①職員は利用者の要望を聞き・感じとって本人に合ったケアを心がけ、また、安心安全を第一に考えて自立支援が目的にならないように本人に選択してもらいその手伝いをする本当に必要な介護に努めている。利用者は自分らしさを損なわない生活をし、安全で心も体も健康な生活を送り、1日1日を楽しく会話やレク活動をして笑顔が生まれている。②職員は、考える力を伸ばして考えて動けるようになり、利用者の笑顔から頑張る力となっている。また、管理者・リーダーとの距離が近く何でも云い合える関係性や働きやすい環境があり、離職が少なく安心なサービスと質の向上に繋がっている。また、系列の専門学校があり留学生在がアルバイトに入りそのまま正社員として登用され、ホームとして留学生の運用のノウハウがあり強みを活かした人材活用の差別化が図れている。③今後の取り組みとして、地域活動として認知症カフェの立ち上げ、家族との面会や運営推進会議の参加型の再開、行事の工夫や外出活動等から日常生活を取り戻すための活動を再開したいと考えている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナウイルス感染症対策の為、フロア間の職員の往来を控えており、前年まで行っていた朝礼時の理念唱和は中止している。現在は各会議体にて理念の説明、共有を行い職員の意思統一を図っている。	「入居者主体」の理念の実践に向けて利用者の要望を聞き・感じて専門職として本人に合ったケアを心がけている。利用者が安全で心も体も健康な生活を送り、1日1日を楽しみ会話をして笑顔が生まれ、職員は利用者の笑顔から頑張る力となっている。気づきや気になる事は意見交換をし、管理者・リーダーは現場に入って声掛けや気づきを伝え問題点を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍にあり、前年まで行っていた利用者と共に買い物に外出する等の地域交流は中止している。	コロナ禍でホームの外出行事や買い物は中止し、地域の祭りや催し等も中止され、ディサービスの地域交流の場「サロンうぐいす等」も中止となり地域交流が出来ていないが、来季はコロナも緩和となり再開に向けて準備している。地域の人々が作成した飾り物をフロアに飾り、民生委員と地域交流について話し合っている。また、安心ケアセンターと共同してオンラインによる認知症カフェの開催に向けて協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策の為、前年まで行っていた認知症カフェは中止している。現在、あんしんケアセンター、市担当者とのオンラインによる認知症カフェ開催に向け協議中である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症カフェ中止に伴い、運営推進会議も中止している。認知症カフェのオンライン開催と併せ、これまで行われていなかった他事業所との共同した運営推進会議開催に向け協議中である。	運営推進会議は書面開催として開催されている。来期にはオンラインによる参加型の開催を予定している。ホームは「利用者状況・職員体制・活動報告・コロナ対策等」の議事録を作成し、安心センター・自治会・民生委員・家族等に送付し、アンケート用紙を同封して意見をもらいサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍においても従来通り、市担当者との連絡・相談は必要に応じて行っており、良好な関係構築に取り組んでいる。また今後増大するWEB会議、研修に備え、必要機材の購入、職員教育に取り組んでいる。	市の担当者とは事故報告や行政上の手続き・加算・ICT補助金の相談、生保者への対応等に協力している。また、メールでの防災や感染症対策、BCP関連のオンライン研修やZOOM配信でのワクチン接種等に対応している。ホーム内でのコロナ発生し、市や保健所との連絡や対策を徹底して現在は終息している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉市の定める高齢者虐待防止マニュアル、虐待の芽チェックリストを基に、各会議体にて意見交換やケアへの振り返りを行い、職員間で注意し合える環境の構築に努めている。	法人の身体拘束廃止の指針を周知し、市の高齢者虐待防止マニュアルによる内部研修の実施と虐待の目チェックリストによるチェックを行って振り返り気づきが生まれている。言葉の拘束等は介護の基本として理解し、管理者は気づくとその場で注意喚起をし、職員間でもやんわりと注意し合える関係がある。解決が難しい事や都度発生する事はユニット会議で話し合っている。	ユニット会議やカンファレンスでの身体拘束や虐待に関する話し合いの内容を議事録にまとめ、身体拘束委員会を開催し、運営推進会議に報告する事が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加し、各会議体での情報、知識の共有を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加し、日常生活自立支援事業や後見人制度等を学ぶ機会を設け、全職員で理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、計画作成担当者が契約前に面接を行い、利用者や家族の不安や疑問解消に努めている。また契約時には説明を十分にして利用者、家族の理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議中止に伴い、直接的に家族の意見・要望を聞く機会が減少しているが、日々の支援の中で利用者からの意見・要望を汲み取り、必要があれば家族と相談して施設運営に反映させている。また、その分「今月の様子」の内容を充実させ、利用者の状態が家族に伝わるよう努めている。	コロナ禍で家族の面会は玄関内で行われ担当職員は利用者状況の報告と要望を聞いている。また、変化等何かあれば電話連絡をし要望も細かく確認をしている。毎月「今月の様子」を送付し、利用者の生活の様子と行事やレク活動の写真を多く取り入れて工夫をして家族から好評となっている。利用者の状況は日々確認と意思表示を聞いてケース記録と連絡帳で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議体、もしくは直接管理者と面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また現場運営についてはトップダウンでの命令は避け、問題提起して職員個々に業務の在り方を考えてもらうよう努めている。	職員はユニット会議やケアカンファで利用者一人ひとりの変化や気づき、課題についての意見を述べている。また、利用者の安心安全を第一に考え、自立支援が目的にならないように本人に聞いて選択してもらいその手伝いをする本当に必要な介護に努めている。施設長は職員が日報を持って来る時に様子を見てこまめに声掛けをし業務の相談を受けて話し合っている。また、自己啓発を促し資格取得と留学生の職員登用等の職員育成の環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に対する生産性とやりがいのバランスを勘案し、必要があれば管理者が問題提起して、職員が働きやすい職場環境の整備、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在WEB研修が増えてきていることから、職場から業務時間内に研修を受講出来るよう、環境整備に努めている。また職員の勤務年数やスキルに応じて実践者研修等の外部研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェの再開に向けて、同業者、市担当者とのWEB会議に参加を予定している。今後はオンラインでの他事業所、行政との交流を行い、関係性の強化、サービス品質の向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見に耳を傾け、要望等に応えられるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の意見に耳を傾け、要望等に応えられるよう努めていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族とよく話し合い、優先順位・必要としている支援を見極め、支援できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として尊敬し接して、入居者に色々教えてもらう事や手伝ってもらえる事も多く、お互いに支え合う環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「今月の様子」という用紙で施設での様子をご家族様に報告しています。面会がなかなか行えない状況もあり、「何かあれば連絡」と今まで以上に連絡を取り合い意見交換を行なっています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限があり外部との交流は出来ておりませんが、いつでも面会・交流が出来るよう環境整備に努めています。	入居時に利用者の生活歴等をアセスメントに記録して馴染みの人や場の把握に努めている。コロナ禍で外部との交流が難しくなっているが、入居時には近所の人が顔を見に訪れ、終末期に知人の面会が久しぶりにあった。家族の面会も制限をして行われ、利用者の要望で家族への電話を取り次ぎ、年賀状が来て居室に飾っている。カラオケ機材を新しく導入して歌以外のコンテンツを活用して「昭和の生活」や体操の映像を見て回想し体を動かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の仕切りの為、多少関わりに制限が出ていますが、職員が間に入り何か行うにも極力、皆で出来、孤立しない様心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰・別施設への転所等の支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・ご家族の意向に沿える様に入居前・入居後に 職員が情報の収集・共有に努めています。	利用者の思いを暮らしは、入所前のアセスメントで聞き取り、入所後は、日常のコミュニケーションから意向などを収集し、大事な情報については記録し共有するようにしている。聞き取りが難しい利用者には、表情や動作から職員が読み取るようにして気づきを大切に日に日々の支援を行っている。	利用者の入所までの生活歴をアセスメントしてきたが、生まれてから今までの生活歴をもう少し詳細に聞き取るなど人生観や価値観を知ることが、利用者の理解につながる。声がけやアプローチの方法のヒントになるので職員全体で共有して、支援の質が向上していくことを期待しています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に関わった方達から出来る限りの情報収集を行なっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、過ごし方・心身状態の把握に努め、申し送りや連絡帳等で共有し対応できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が得た情報を意見交換等で共有し、ご本人の為になる自立支援に向けた介護計画を作成しております。	利用者と家族からホームで望む生活を含め、課題を見つけて必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画書を作成するようにしている。本人から聞き取ることが難しいときには、家族や関係者と話し合い気づきや意見・要望を反映するようにしている。心身状況の変化が見られた時には、迅速に見直しを行うようにして臨機応変な対応を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その場で気付いた事等を意見交換や記録に残し職員が共有できるようにし、検討も行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応がなかなかできない状況ですが、コロナが落ち着いたら、しっかり対応できるよう準備をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、スーパーへの買い物・地域資源の発掘・活用を入居者は行なえず、現状は職員のみで行なっております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医にするか、施設の往診医にするか相談し、入所後も状況に応じて相談させていただきます。	本人及び家族の希望を大切に、馴染のかかりつけ医の受診は家族支援で継続して行われている。往診は、内科・皮膚科・精神科の医師が来ていて、緊急時には連絡して受診や往診が行われている。訪問看護とは24時間連絡が取れる体制を作り主治医との連携をとるようにしている。服薬に関しては、薬局の薬剤師が利用者ごとに仕分けを行い誤薬予防を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携によりいつでも医療と相談できる体制を整えております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者に都度相談でき情報交換を行なっています。近隣の馴染みのクリニック等とも常時連絡も取れ、相談・往診等出来ます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期はご本人・ご家族との相談のもと、出来る限り対応させて頂こうと心掛けております。また希望に沿えるよう職員も知識・経験を積めるよう努めております。	重度化や終末期の支援については、本人や家族に入所の契約時にホームでは看取りを行っていないことを説明して納得をもらうようにしている。医療依存度が高くなり心身状況の低下が著しくなった時には、事前に家族と話し合いを行い、利用者の今後について相談や支援が行われている。ホームの環境設備や職員の体制が整った時には看取り支援も検討していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時に備え、マニュアル検討・情報の共有は行っている。また職員会議にてマニュアルの読み合わせを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを整備、消防訓練を実施している。今後はBCP作成にあたり、地域のハザードマップの確認、協力体制の再構築が必要と考える。	防災訓練は防災対応マニュアルに沿った訓練計画書に基づいて年2回実施されている。地震想定の際の避難訓練では「安全の確認・避難経路の確保・動ける人の避難」、日中想定の際の火災訓練は「火災発生・通報・消火・避難誘導」が行われている。訓練終了後には反省会を行って次回訓練に活かしている。コロナ発生時には市や保健所との連絡や感染予防対策の冊子を基に日々感染症対策の徹底、法人から人材の派遣やガウン等物品供与の支援があり無事に終息している。	BCP計画は事業所毎に、災害はハザードマップに合わせ、感染症は感染症予防対策の冊子を基に作成する事としている。厚労省のひな型や行政の研修に参加して作成する事としている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活の中で一人一人の状態を把握しプライバシー保護・人権尊重に取り組み、声かけ・対応等にも十分注意しております。	居室への入退室には声がけと挨拶を行い、利用者一人ひとりのプライバシーに配慮している。入浴介助の対応で同性介助の希望があれば、なるべく利用者の気持ちに沿うようにしている。職員には、日々の支援が自分だったらどうかと考えてもらい、言葉かけや対応には十分に留意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面で自己決定・選択の自由が出来るよう環境に留意し、希望に沿えるよう全職員で努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活なので全ての希望に沿えているわけではありませんが、一人一人が自由なペースで生活出来るよう全職員で努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望・意思のもと、身だしなみやおしゃれが出来るよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	仕切りはありますが皆で食卓を囲み食事を楽しめる様席配置等環境に留意し、食事の準備・片付け等出来る事は行なってもらう様支援しています。	食事の形態は、常食・キザミ・ペーストと利用者の咀嚼状況に合わせて調理している。1日の昼食か夕食は、利用者から希望を出してもらい献立を決めて買い物に行っている。野菜切り・盛り付けや皿洗いなどは、利用者の様子を見ながら声がけて一緒に行うようにして、なるべくみんなが参加できるように職員が役割などを工夫して支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の個々の状態把握に努め、食べる量・栄養バランスを考え、何かあれば医師等に相談し提供しております。食事摂取量・水分量は毎日記録しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや手伝いにて毎食後口腔ケアを行われ、数人は定期的な訪問歯科にて清潔を保たれております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔・タイミングを把握しトイレでの排泄を行なってもらえる様、声かけ等を行なっております。	排泄チェック表などで、利用者の排泄のタイミングや日常の様子を把握しながら、トイレへの誘導を行うようにしている。個々のタイミングや気づきによる声がけにより、失禁の回数も軽減してきている。排便に関してもなるべく薬を使わずにトイレでの排泄が行えるように、水分や乳製品を摂取するようにして体操などで体を動かす機会を作り便秘の解消に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し下剤の使用、適度な運動や飲み物・食事の工夫をし便秘の予防に努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて入浴の声かけをし、拒否のある方には無理には行なわず時間・日にちを変えその人のタイミングで入浴行なっております。	入浴はマンツーマンで行うため、職員とのコミュニケーションの場となり大切な時間となっている。気持ちよく入浴ができるように入浴剤を準備して、利用者の希望を聞き使用するようにしている。一般浴での入浴に心配がある時は、ディサービスのリフト浴を利用して安楽な入浴ができています。拒否がある時は、声がけの方法や日時を変えるなどの柔軟な対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転をしない様に注意し、ご本人のタイミングでしっかり寝てもらえる様、配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行ない、服薬時にダブルチェックの後、渡ししっかり飲み込んだかの確認を徹底しております。個人の薬情報は職員が見れるようにして共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備・片付け等、個々の出来る事は行なってもらい、それが役割・楽しみになるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーへの買い物・季節に応じた外出・外食は行なえておりませんが、施設付近での散歩は出来る範囲で行なっております。	新型コロナ感染の不安などがあり、外出の機会は減っている。ホームでは、ベランダを開放して日光浴をしたり、廊下などを利用して動く機会を増やすようにしている。日常の家事にも無理せずに参加してもらい、生活のリハビリに心がけている。桜の開花時には、気分転換や楽しみを作る意味でも人ごみを避けて花見が出来ればと考えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等に行けず、個々でお金を所持したり使ったりの支援は出来ておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば、電話や手紙の対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で生活感のある環境に配慮し、季節にあつたものを取り入れ室内でも季節感を味わってもらえ、不快感なく過ごしてもらえる様工夫しております。	リビングには、季節を感じるように利用者と一緒に作成した作品を掲示し、天井には桜の飾りなども活用して気分は春になっている。食卓には、感染予防のためのシートを設置しているが、食事の時には楽しく会話している様子が見受けられた。また、ベランダの前にはソファを設置しているスペースがあり、日光浴や近隣の風景を見て休憩ができる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの席配置や色々な所にソファ・椅子を置き思い思いの所で過ごしてもらえる様工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた物や馴染みの物等を持参して頂き、施設での生活に馴染めるよう配慮しています。	居室は、備え付けのベッドと洋服ダンスがあり、馴染のある家具・仏壇・寝具などを自宅から持ち込み利用者が居心地の良い空間になるようにしている。カーテンなどは好みのものや遮光カーテンなどに交換ができるようにして、朝夕には換気や掃除を行うことで、気持ちよく過ごせて安眠ができるように努めている。夜間巡回では、安全の確認やトイレ誘導・排泄の支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事を職員が把握し、出来る限り自立した生活を送れるよう、支援していきます。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	日が経つにつれ、認知の進行・身体機能の低下が進んだ時に対応しきれない時が見られている。無意識の中で抑制につながる言動・行動が見られる事が ある。	言動による抑制等がなくなるようにしていく。	法人の身体拘束廃止の指針を周知・市の高齢者マニュアルによる研修等を行い身体拘束ゼロに努めていく。	12ヶ月
2	38	その人らしい暮らし・生活を送ってもらえる様環境整に努めていますが、業務等に追われ対応で来ていない時もある。	共同生活を送りながら出来る限り各々のペースで生活をしてもらう。職員も柔軟に対応できるようにしていく。	入所前の生活歴や本人の求めている事・やりたい事等の情報収集を全職員で行ない、情報交換・共有を図る。業務等に追われずゆとりを持てる様、入居者の身体状況の把握・職員の介護スキルアップを図ります。	12ヶ月
3	2	新型コロナウイルスによる影響で地域との関わりが ほとんどなくなっている。	少しでも地域との関わり・絡みが増えるように努めていく	オンライン等を活用し行政・あんしんケアセンターと連携を図り、どのような関りが出来るか検討し実行できるよう取り組んでいきます。	12ヶ月
4	35	災害対策としてBCP作成にあたり、地域との問題共有、協力体制の再構築が必要である。	コロナ渦で関係が希薄化している社会福祉協議会や町内会との連携を深め、地域に根差した実現性の高いBCP作成を行っていく	千葉市社会福祉協議会、町内会の行事に参加し、関係性の強化に努めていく。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。